

## 東大和市子ども・子育て支援会議 第2回議事録

会議名	令和元年度 第2回 東大和市子ども・子育て支援会議
開催日時	令和元年5月29日(水) 14:00～
開催場所	中央公民館ホール
委員	(出席者)上田委員、梶原委員、黒岩委員、神原委員、小林委員、佐々木委員、續谷委員 水上委員、濱脇委員 (欠席者)網干委員、黒田委員
事務局	吉沢(子育て支援部長)、榎本(子育て支援部副参事 子ども・子育て支援施策推進担当) 鈴木(子育て支援課長)、関田(保育課長)、新海(青少年課長) 越中(子育て支援部副参事 狭山保育園長)、小坂(子育て支援課子ども家庭支援センター長) 豊田(保育課保育・幼稚園係長)、原(子育て支援課手当・助成係長) 長井(子育て支援課ひとり親・女性相談係長)、横山(保育課管理・給付係長) 今里(青少年課青少年育成係長)、岡部(青少年課青少年施策推進担当主査) 越野(保育課管理・給付係主任)
傍聴者	0名
会議次第	1 開会 2 子育て支援部長挨拶 3 議事 (1)東大和市子ども・子育てニーズ調査の分析について (2)「東大和市子ども・子育て未来プラン」について (3)報告事項 ・(仮称)子ども・大人会議の正式名称決定について 正式名称:「子ども・子育て憲章検討部会」 ・保育園、学童保育所の待機児童数について (4)その他 4 閉会
配付資料	[当日配付] 子ども・子育て支援ニーズ調査結果報告書(自由意見見え消し版)【資料1】 子ども・子育て支援ニーズ調査 自由意見まとめ【資料2】 関連計画等を踏まえた地域特性分析(SWOT分析)【資料3】 東大和市子ども・子育て未来プランに向けた課題【資料4】 内閣府 「第12回子供の貧困対策に関する有識者会議」配布資料【参考資料】 保育園のおしごと【採用・相談会開催チラシ】
<b>会議の結果及び主要な発言</b>	
事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>皆様、こんにちは。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。 定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度第2回東大和市子ども・子育て支援会議を開会させていただきます。</p> <p>なお、本日は黒田委員が所用のために欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>それでは、議事に入ります前に、最初に菅野委員の人事異動に伴いまして、新たに委員とされました東大和市立第一小学校の濱脇哲也委員に、委嘱状の交付を行います。</p> <p>本来であれば、委嘱状は市長から交付させていただくところでございますが、本日は市長</p>

<p>子育て支援部長 事務局</p>	<p>に別の公務が入っているため、代わりに子育て支援部長から交付をさせていただきます。 それでは、よろしく願いいたします。 (委嘱状交付)</p>
<p>濱脇委員 事務局</p>	<p>それでは、早速ではございますが、委員に就任されました濱脇委員から、自己紹介をお願いします。 (自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局 子育て支援部長 事務局</p>	<p><b>2 子育て支援部長挨拶</b></p> <p>それでは、議題に入る前に子育て支援部長、吉沢から一言ご挨拶を申し上げます。 (子育て支援部長挨拶)</p> <p>ありがとうございました。最初に配付資料の確認をさせていただきたいと思います。 次第と資料の1から4、それから参考資料の5点と、さらにブルーのチラシ「保育園のおしごと」の全部で6点、ございますか。</p> <p>一点、資料の取り扱いに関しお願いです。資料1の「子ども・子育てニーズ調査結果報告書『自由意見見え消し版』」は、先日本配りました黄色い表紙「東大和市子ども・子育て支援ニーズ調査 報告書」に載せきれなかった自由意見も全文載せて、見え消しをしたものです。こちらにつきましては、公表しておりませんので、どうぞ取り扱いには十分ご注意くださいとさせていただきます。</p> <p>それでは、ここからの進行は、会長をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さん、改めまして、こんにちは。 (会長挨拶)</p> <p>それでは、本日は傍聴の方がいらっしゃるという報告が事務局からありましたので、会議次第に沿いまして、進めさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p><b>3 議事</b></p> <p><b>(1) 東大和市子ども・子育て支援ニーズ調査の分析について</b></p> <p>まずは議事の1番目、東大和市子ども・子育て支援ニーズ調査の分析、こちらについて、事務局のから説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2の子ども・子育て支援ニーズ調査、自由意見まとめをご覧ください。 こちらは、寄せられた自由意見を項目ごとに、また、主な内容ごとに件数を数えまとめたものです。</p> <p>次に、A3判の資料3、関連計画等を踏まえた地域特性分析(SWOT分析)は、東大和市の計画とニーズ調査の結果や公表データなどから導かれる、当市の強みや弱みを社会的な動向なども踏まえ分析したものです。</p> <p>資料の詳細につきましては、委託事業者からご説明を申し上げます。よろしく願いいたします。</p>
<p>事業者</p>	<p>皆様、改めましてこんにちは。</p> <p>それでは、ただいま、事務局からご説明ありましたとおり、資料2と資料3についてご説明を差し上げます。</p> <p>資料2につきましては、自由意見のまとめということで、詳細カテゴリーの分類をしております。</p>

す。未就学児・小学生が対象のアンケートの自由意見部分を(1)から(10)までの10分類に分けておりますが、その中でも、どういった項目が多かったのかというあたりをご紹介します。

なお、それぞれの詳細については、別紙でお配りしている資料1や皆様にお届けしております「子ども・子育て支援ニーズ調査報告書」に記載しております。

それでは、資料2の1ページをご覧ください。

まず(1)「一時保育・子ども家庭支援センター等について」というところでございます。こちらの内容を細かにカテゴリー分けしたところ、一番多いのは、「一時保育の定員を増やしてほしい、空きがない」といったご意見が8件ございました。また、2番目としましては、「一時保育を充実してほしい」というところで、量の充実もそうですが、質の充実、そのあたりもご意見として多く上がっているところでございます。

(2)は、「保育園について」です。保育園についての部分は、一番多いのが「入園条件等、保育園に入りやすい、働きやすい環境になってほしい」といったところで、使いやすさといった部分が1つ、さらには、「保育料が高い」というご意見や、「保育士の待遇の改善をしたほうがいい」といった、こちらも質の問題といったところにも言及されているご意見が多かったということでございます。

(3)番、「幼稚園について」です。幼稚園については、総件数としてはそこまで多くはなかったのですが、こちらもやはり「数をふやしてほしい、地域に偏りがある」といったご意見、さらには、「費用が高い」といった、利用に関するご指摘がございました。

2ページの(4)番、「学童保育について」です。こちらも、やはり「学童保育の数をふやしてほしい」といったご意見が多くございました。また、「長期休暇の学童保育、こちらも充実してほしい」という意見も7件ございました。また、その次にですが、「学童保育を高学年も利用できるようにしてほしい」とありますが、法制度の改正に伴い、高学年の利用ということも重要になってまいりますので、そのあたりが自由意見に反映がされております。

そして、(5)番、「学校・放課後子ども教室について」ですが、これは学校施設の老朽化の問題にご意見が集まっております。また、市内の学力の低下といった学校教育の中身の話にもご意見としていくつかあがっております。

3ページ目、「児童館について」です。こちらは、「児童館の玩具・おもちゃ等は新しくするなど、環境をよくしてほしい」というご意見が3件と最も多くなっています。

そして、(7)番、公園・遊び場についてですが、「公園が狭い、遊具が古いなど、遊具等を充実してほしい」と意見が最も多くなっております。また、この公園・遊び場についての意見は、ほかのカテゴリーの中でもかなり多くの数が出ているご意見の箇所です。上から4番目、「公園などでボールを使って遊ぶことができない」などのご意見は、まさに今どきのご意見かなと思います。いかに子どもの遊び場、安全・安心な場所の整備を進めていくかということが、必要になってまいります。

いずれにしても、今の(5)(6)(7)のように、施設などの老朽化などについては、別の計画等になるかとは思いますが、それぞれ計画的な整備が必要になってまいります。

そして、(8)番、「母子保健・医療について」です。こちらについては、「医療費助成の年齢の延長」に関するご意見が5件、「医療費助成の所得制限の緩和」についてが4件となっております。

4ページ目、(9)番、「病児・病後児保育・障害児保育等について」ですが、「病児保育の定員

が少ない、利用しづらい」が12件と最も多くなっております。このあたりは、利用の方法をいかに周知していくか、そして、簡易化していくということですが、当然、お子様の大切な命を預かるということですので、簡易化する中でも必要な事項等をいかに漏れなく、安心な利用の方法をつくっていくかといったところが必要でございます。

また(10)番、「子育て制度・行政等について」は、少し広いカテゴリーではございますが、最も多いのは、「子育て支援に関する情報提供の充実」です。他の自治体等もアプリ等を利用しながら、子育ての制度などについて周知を図っているところでございますが、やはり保護者の方にとっては、必要な情報をやはり必要なときにほしいといったところで、そうした情報の提供の体制、提供方法の充実というのが必要になってくるということでございます。

資料2自由意見のまとめについては、以上です。

続いて、資料3です。

こちらは、<sup>スワット</sup>SWOT分析という分析手法で、客観的に課題を整理しながら、今後の方向性を出していくためのフレームワークです。右側にありますように、国等の動向、社会的背景といった機会、そして、社会的な問題という脅威、また、下の段にありますように、充実していることや方針という強み、そして、不足または問題となっていることという弱み、このあたりを組み合わせることで課題を抽出していくという形です。こちらの資料3の左側、一番左の枠は、既計画でどのような目標が掲げられているかといったことを、その右からは最上位の計画である東大和市総合計画において、どういった子ども・子育てに関する方向性が示されているのかといったことを記載しています。また、真ん中には、重要施策・施策の状況や、アンケートの結果を抽出して記載しております。そして、そこから導かれることを右側のフレームに落とし込んで、整理をしております。さらに、そのフレームの中は、「機会(O)」、「脅威(T)」、「強み(S)」、「弱み(W)」に分かれております。

機会の部分は、例えば子育て安心プランなどの国の法整備、さらには人づくり改革や生産性革命といった、いわゆる働き方改革といったところの視点、そのあたりの国の動向が入ってまいります。

また、脅威の部分につきましては、児童虐待の問題や、いじめの深刻化、さらには保育士が不足しているといった社会的な問題がございます。

強みにつきましては、重点施策としてどういったものがあげられているか、さらには市の総合計画の中でどのようなことが掲げられているかということに記載しています。

また、弱みの部分は、主に事業の経過や、さらにはアンケート結果から課題を抽出していますが、次の議事2で、詳細な課題の整理について、ご説明差し上げます。

以上です。

会長  
委員

説明が終わりました。皆さんから、ご質問、ご意見はございますか。

学校の施設についてですが、ここ数年でトイレの洋式化が東大和市でも進んできました。トイレが洋式化すると何がいいかといいますと、使いやすだけでなく、学習環境に非常に影響を与えていた臭いが改善していくことがあげられます。しかし、やはりトイレの状況が一般家庭に比べて、学校のほうが悪いというのは改善していかなくやいけないと感じているところなんです。

会長  
委員

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

資料2についてです。この中で、すぐにできないことと、明日にでもできるのではないかと、ということがあり、例えば(6)中の「児童館の玩具等を新しくするなど、環境をよくしてほしい」や

事務局	<p>(7)中の「公園が狭い、遊具が古い、遊具を充実してほしい」などは、すぐ取り組める事項かとも思います。実際こういったアンケートをとって、動き始めているのですか。</p> <p>児童館に対してですが、このニーズ調査のさまざまなご意見は、現場の職員にも、既に伝えてあります。実際に新しい玩具への更新もしているはずですが、利用している方に、うまく伝わっていないところもあるのではないかと、という話を運営側も既にしているところがございます。</p>
会長 事務局	<p>ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。</p> <p>公園の部分についてです。公園は子育て支援部の所管ではありませんが、公園に関するご意見が非常に多いという点は、公園の所管部でも重々認識をされているようです。遊具などはお金が掛かるものであるため、今後、公園の所管部でも計画などをつくって、予算化していくなど、これから検討していくというところですか。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございます。ほかにはどうでしょうか。</p> <p>私は、第三小学校でお世話になっております。放課後子ども教室の備品や設備などが、余りにも古くなって壊れていたということがあったのですが、事務局にお話をしましたら、すぐに全部整備をしていただけたという経過があります。</p> <p>やはり、ときどき事務局にはそれぞれの学校の放課後教室の備品などがどうなっているかというところを、少し確認していただくのかなというのは感じました。</p> <p>ただ、実質的に活動している方たちも、そういう報告を事務局に上げていくことも、必要なのかなと、感じました。</p> <p>今回はお願いをして、とてもきれいにしていただけたので、それは大変ありがたいことだと思っております。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございました。ほかには、いかがでしょうか。</p> <p>資料2の中で、(10)番の「子育て支援に関する情報提供を充実してほしい、アプリがあるとよい」というのが一番多い回答となっています。子育て支援に関する情報提供は、市でも冊子などで行っているのですけれども、市民の方々に浸透していないということなのでしょう。あるいは、スマホですぐにアプローチできるような、「アプリがあるとよい」というように意見がありますが、その辺の状況は市ではどのように受けとめているのでしょうか。</p> <p>全部が全部スマホを見るだけで済みますのではなく、フェース・トゥ・フェースのヒューマンリレーションシップもまた大切にしていくのが、子育てに関しては必要なのかなという気もしますが、手軽にアクセスできるという点では、アプリなどを通して、簡単に情報を入手できるということも重要なと思います。</p>
事務局	<p>アプリに関しましては、東大和市にもございます。ただ、PRが不足しているところで、保護者さんたちに浸透していないという部分があるかと思えます。</p> <p>子ども家庭支援センターでも、講座開催のお知らせなどにアプリを活用させていただいていますが、その講座の実施後に、講座の様子をお伝えするような対応ができておりません。保護者さん方からは、講座の様子が分かる写真などをご覧になって、行ってみようか、どうしようかと考える、というご意見を多数頂戴しておりますので、実施後の報告に関する活用が今後の課題だと考えております。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>議事の1に関するところで、ほかには皆さんのご意見ございますか。</p> <p>今のPRに関してなんですけれども、子ども家庭支援センターの「出張かるがもひろば」の</p>

<p>会長</p>	<p>お手伝いをさせていただいています。その中で、いらしたお母さんたちには、子育てアプリがあるというお話を、保育士さんたちがしてくださっていますし、私などは子育て支援の文庫などをやっていますので、そういうところでも、やはりをPRしています。ただ、そういうところでお話をしても、なかなか広まらないというのが現実なので、いろいろなところで、PRを行っていくことが必要だと思います。</p> <p>例えば、市報にちょこっと載っていても、皆さん市報をあまりご覧にならないのです。もったいないなと思うのですけれども、子育てハンドブックもそうですし、いろんなものをつくっているのだけれども、それが浸透していないということが実情で、本当にもったいないなと思っております。ですから、例えばこういうところで我々が知ったら、ちょっと声がけしていくとか、そういう“口コミ”というの必要かなと、感じています。</p> <p>ありがとうございます。確かにさまざまな、ある程度充実した資料もあるのですが、もう一歩踏み込んだ宣伝というか、みんなに知ってもらうための努力をさらに進めていただくとありがたいな、というふうに思います。</p> <p>その中でも、先ほど委員がおっしゃったように、何かあるたびに口コミで伝えていくと。そうすると、単に一方的ではなくて、何かあったときに、two-wayの、相互方向のコミュニケーションで、よりそこが強化されることがあるので、ぜひ地道な活動を、引き続きよろしく願いします。</p> <p>議題1に関しては、よろしいでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p><b>(2)「東大和市子ども・子育て未来プラン」について</b></p> <p>それでは、次の議題に入ります。議事の2番目、「東大和市子ども・子育て未来プラン」についてです。事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、資料4の東大和市子ども・子育て未来プランに向けた課題をご覧ください。</p> <p>先ほどからご覧いただきました資料3で分析した当市の弱み部分、これをクローズアップしたものが資料4でございます。</p> <p>一つ一つの問題に対しまして、国や社会の動向、市の現状、アンケート結果を踏まえて、課題の洗い出しを行っています。</p> <p>論点は、大きく3点あり、1つ目が「切れ目のない支援体制の構築」、2つ目が「子育て家庭が安心して子育てできるまちづくり」、3点目が「すべての子どもの健やかな成長への支援」です。引き続き事業者からも説明をお願いいたします。</p>
<p>事業者</p>	<p>資料4についてご説明申し上げます。事務局から説明がありました3つの項目等で課題をまとめております。</p> <p>この3つの課題は、あくまでも重点的に導き出した課題で、次期計画において対応していないといけない部分です。</p> <p>ですので、細かな各事業等の課題や方向性については、今後の子ども・子育て支援会議の中でご議論をしていく部分です。今回は、大皿としての3つの課題について説明いたします。</p>
<p>事業者</p>	<p>資料4は枠の左側に1～4があり、1には、国の方針や社会動向の部分を、2には、市の現状として統計データを一部抜粋して入れております。さらに、3の部分はアンケート調査結果を、4の部分は、主な課題を記載しています。</p> <p>1つ目の課題は「(1)切れ目のない支援体制の構築」です。近年、地域のつながりの希薄</p>

化等により、妊産婦等が孤立し、不安感を抱えやすくなっている、と考えられており、子育て支援においては、妊娠期から出産、育児期にかけて切れ目のないサポートの体制の充実が必要になっています。

ニーズ調査の結果を見ますと、子育てに関連して日常悩んでいることとして、未就学では「子どもを叱り過ぎているような気がする」、「食事や栄養に関すること」、そして「病気や発育・発達に関すること」といった割合が高く、小学生になりますと、「子どもの教育に関すること」、同じく「子どもを叱り過ぎているような気がする」となどの割合が高くなってきております。

子どものライフステージ、子どもの年齢によって子育てに関する悩みが異なりますので、保育分野、教育分野など多岐にわたっているということになります。

東大和市においては、子ども家庭支援センターや、母子保健コーディネーターの配置など、相談支援体制の充実を図っており、保健センターの情報・相談事業や子ども家庭支援センターの認知度も高く、情報発信への取り組みを進めているところです。

一方で、地域の子育て支援事業の利用者というのは4割未満となっており、子育て支援情報のさらなる充実、気軽に相談できる体制づくりなどを求める声も多くなっております。

子育てに対する不安感が軽減され、明るい展望を持てるよう子育てに関する情報の周知を図るとともに、子育て世代包括支援センターと子ども家庭支援センターが一体的に、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、保健・医療・福祉・教育等の関連機関による切れ目のない支援を行うことができる支援体制の構築が必要になっているということです。

こちらが、1つ目の主な課題でございます。

2つ目の課題は、「(2)子育て家庭が安心して子育てできるまちづくり」です。

国では、子育て安心プランにおいて、M字カーブを解消するために、平成30年度から平成34年度末までの5年間で、女性の就業率80%に対応できるように、約32万人分の受け皿を整備するという方針を定めております。

東大和市におきましても、新たな認可保育園の増築、都有地を活用した保育施設の整備の検討、保育士確保に向けた支援など、保育ニーズへの対応を図っているところです。

ニーズ調査結果を見ますと、前回調査に比べて、母親の就労希望が増加傾向になっており、さらには一時預かり、病児保育の充実などを求める声も高くなっており、多様な保育ニーズがあることがうかがわれます。

今後実施予定の幼児教育・保育の無償化、さらには国の子育て安心プランなどの社会情勢を踏まえながら、ニーズ調査の結果を総合的に勘案して、保育の受け皿、そして保育人材の確保とともに、教育・保育のさらなる質の向上というのが求められます。

なお、今後、ニーズ調査に基づきながら、量の見込みも出てまいりますので、後日ご審議いただくこととなります。

また、国が策定した新・放課後子ども総合プランでは、放課後児童クラブについて、2021年度末までに25万人分を確保することとし、小1の壁の打破することが求められております。

ニーズ調査結果を見ますと、就学前児童では低学年のうちの放課後に過ごさせる居場所として、学童保育所の割合が35.1%と、前回に比べて大きく増加をしております。また、公園などの遊び場に関する意見というの、多くなっています。全ての就学児童、全ての子どもが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができる放課後の子どもの居場所づくりが必要になってまいります。

3つ目の課題は、「(3)すべての子どもの健やかな成長への支援」です。

東大和市では、日本一子育てしやすいまちづくりを推進するために、「(仮称)子ども・子育て憲章」の策定を進めるなど、全ての子どもが自分らしく健やかに成長できるようなまちづくりを進めています。

一方、全国的にも子どもの貧困やいじめ問題、虐待、自殺といった子どもを取り巻く複雑な状況があります。ニーズ調査見ますと、自分を大切にしているかといった割合は、中学生で66.2%、高校生で76.3%ということで、自己肯定感が余り高くない児童も見られます。こういった子どもに対して、子どもの声を聞き、寄り添い、さらには子どもたちの視点に立って、全ての子どもたちの健やかな成長を支援できる環境の整備を図ることが必要です。

未就学児では、日常的に祖父母等の親族に見てもらえる、緊急時等に見てもらえるの割合が大半を占めておりますが、いずれもない、つまり見てもらえる親族や知人がいないといった割合が、前回の調査に比べて増加をしています。

日常生活において孤立感を感じる割合というのは、未就学で約2割、小学生で約1割となっており、こういった保護者さんや子育て家庭をどのように地域でつなげていくかといったところも考えていく必要があります。

東大和市においては、高齢者見守りネットワーク「大きな和」の見守り対象を子どもにも拡大しており、子どもから大人まで包括的な支援体制の構築を図っています。

このようなすばらしい地域の取り組みを踏まえながら、子どもの安全を確保するということ、さらには子育てへの不安感、孤立感、負担感を感じる家庭に対しまして、相談しやすい環境整備をするといったところが必要になってきます。

以上の3つの重点課題を踏まえ、細かな課題等については以降の会議で皆さんにご意見をいただきたいというふうに思っております。以上です。

会長  
委員

ありがとうございました。事業者さんの説明に関して、ご質問・ご意見はございますか。

保護者の方々とつながる方法については、学校でも苦慮していますが、不審者情報など即座に伝えなければならないことは“まちcomiメール”というメールで伝えていきます。500人弱の児童に対して、“まちcomiメール”を受けられないというのは20名程度ですから、ほとんどの家庭の方が、スマートフォンなどで受信しています。子育てしている方ほど、連絡がつきにくいので、携帯電話等でお迎えをお願いするのが第一です。それと、祖父母がいる家庭には、その方に来てもらうということで、ご支援をお願いしています。以上、情報です。

会長  
委員

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

資料2(10)番の2番目、「気軽に相談にできる体制づくり」というのがありますが、今はどのような形で環境の整備を図っているのでしょうか。また、利用されている人たちは、どのようなところを利用されていることが多いのでしょうか。

事務局

子どもに関する相談体制としては、子ども家庭支援センター、それから、保健センターです。保健センターでは、母子保健の担当保健師がそれぞれ地域を担当しており、生まれたばかりのゼロ歳のお子さんには、“こんにちは赤ちゃん事業”ということで全戸訪問をしています。また、希望される方には、お祝いとしてお子様のネーム刺繍入りタオルセットなどが入った「うまべえ子育て応援パック」をシルバー人材センターの女性会員が配ってくださっており、もしそこでちょっと気になるようなお宅があれば、地域の担当保健師に戻すといった取り組みも行っています。それから、保育課には、医療の資格、保健師、助産師の資格を持った職員とベテランの保育士の職員との2人が、“保育コンシェルジュ”としており、さまざまなおところから相談ができるような仕組みにさせていただいております。さらには、地域に4人の民生委員・



	<p>児童委員の主任児童委員の方々がおり、その方々に日ごろ地域で見てくださっているものが、私どものほうの市役所等の相談機関のほうにつながって、双方でやりとりできるような形になっています。また、その先にいろいろな課題、例えば虐待や学習の問題があれば、児童相談所や教育相談室、教育委員会というところにつながっていくといった体制を構築して、充実していこうと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>事務局から説明があった“保育コンシェルジュ”に関しては、どの市にもあるものではないので、東大和市はその辺で十分配慮していただいているなという気がします。ただ、それがどれだけ市民に浸透しているかという問題もあるかとは思いますが。他にありますか。</p>
会長	<p>私は、主任児童委員を務めています。実際に問題が起きてきたときにしか、我々に話が入ってこない。虐待やいろいろな形での問題に、ちょっとご協力いただけませんかということで、主任児童委員ができる範囲での活動の中で、動いているという状況です。そういう重いことではなくて、一般家庭にもあるちょっとした悩みを、市は気軽に相談してほしいと思っているのかもしれないけれども、敷居が高くて、相談に行けないという人も、中にはいらっしやると思います。そうではなくて、本当に身近に相談できるような形の体制づくりが、1つあればと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、構えなくても相談できる体制が整っていると、市民の方たちは随分使いやすいのではないかなと思います。存外、ちょっとした悩みを持っていらっしやる方は多いと思いますが、それをどこに相談したらいいのか、どのように相談したらいいのかという部分が、市の側では制度としてあるけれども、それを市民の側は必ずしも十二分に理解されていないということはあるかもしれないので、その辺のところを1つの課題として、我々も含めて検討していければというふうに思います。</p>
会長	<p>今の件について追加です。やはり、その点は課題だと思っていますし、相談というと身構えてしまいますが、ちょっとだけ話をしたら楽になるところはあると思います。</p> <p>この4月に、今まで一部の保育園でお願いをしていた“子育てひろば”は、連携型ということで各6カ所の児童館でも実施しています。乳幼児のお部屋で、そこにいる職員に気軽に相談できるような体制を整えていますので、そういったところも利用していただけるようなPRをしっかりしていきたいと思います。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、何とか相談窓口とかいうと、相談する側も意外と身構えてしまうところがあるかもしれません。若いお母さんたちが気楽にふっとスピークアウトできるような環境をつくってあげると、そこからある程度隠れた課題が見えてきて、それをうまく拾い上げて、例えば保育コンシェルジュや子ども家庭支援センターにつなぐといったこともできるかもしれないので、次の課題として我々も引き続き気にかけていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>お仕事なさっている方は、夜間や土日祝日に相談できる窓口があると心強いと思いますが、そういった窓口というのはありますか。</p>
事務局	<p>土曜日は、子ども家庭支援センターが5時までは開いています。ただ、相談というと身構えてしまうので、気軽にちょっとお話しできるというところが、やはり必要なのかもしれません。</p> <p>若い方たちはインターネットなどが非常に得意な方が多いと思いますので、これからは、</p>

<p>会長 委員</p>	<p>AIやスマホのアプリ、さらにはLINEといったものの活用もこれからは考えていかなければいけないのかなとも思います。</p> <p>ありがとうございます。ほかにはいかがですか。</p> <p>私が子育てしているときに、一番相談をしやすかったところというのは、保育園の園庭開放で、そこにいらっしゃる、保育士の先生でした。あとは、“かるがもひろば”も遊びに行きましたし、保育園の“子育てひろば”や児童館にもよく行きました。”子育てひろば”は、常時部屋の中に先生がいらっしゃるのですが、児童館や、“かるがもひろば”は、お仕事の都合で常時そこに保育士の先生がいらっしゃらなくて、乳幼児の部屋とかがあっても、お母さんと子どもで、ちょっと小競り合いがあつたりして、何かちょっと空気が悪くなつたりすることもあり、部屋の中に先生があまりいらっしゃらないような状態だったことを覚えています。</p> <p>今はもう児童館などを利用していないので、現在の状況はわからないのですが、私がそのときに欲しかったのは、その部屋の中に潤滑油になるというか、先生が1人いるだけでも、話しかけやすいし、そういった1人先生がそこにいるのは、すごく欲しかったです。</p> <p>なので、先生がそこにいられるように、お仕事を分担するとか、何かしていただけると、もっとお母さんたちがいろいろな相談事をして、問題があれば早期発見もできるのではないかなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、保護者だけではなく、もっと違った存在の、何かあったときに話を聞いてくれる人がいるだけで随分違って、その人がいることによって、保護者だけのときよりも、保護者同士のコミュニケーションがより広がっていくとか、深まっていくということがあるかもしれないですね。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>ちなみに、いわゆる園庭開放は、市内の保育園ほとんどどの園で実施しているかと思しますので、大いに活用していただければと思います。</p> <p>もう一つは、委員がおっしゃられたように、自分から積極的に出かけていって、これも利用してみよう、あれも活用してみようという保護者の方よりも、孤立して困っている方ほど、悩みは深いのではないかと思うので、そういう方たちをいかにして、うまく外に引き出すような手立てがないかなというのが、皆さんの話を聞いていて、考えたところです。</p> <p>さまざまな児童虐待の案件とか見ていると、積極的に外へ出られないような親御さんが家庭内にこもって、その結果、児童虐待に続いていく、つながるというケースも多いので、これからプランをみんなで検討しているうちに、ふっとアイデア出るかもしれないので、皆さんにも、ちょっと頭の中に入れておいていただいて、機会がありましたら、ぜひいろんなアイデアを提供していけたらと思います。</p> <p>ほかにはいかがですか。ないようですので、議案の2はここまでとさせていただきます。</p>
<p>会長 事務局</p>	<p><b>(3) 報告事項</b></p> <p>議事の3、報告事項です。事務局のからご報告をお願いします。</p> <p>先日、委員の皆様にはアンケートにご協力いただいた、子どもと大人の会議の名称について報告します。アンケートを集計させていただいた結果、「子ども・子育て憲章検討部会」という名称に決定しましたので報告をさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>正式名称は、「子ども・子育て憲章検討部会」となりましたので皆さん、よろしいでしょうか。</p>

事務局	<p>本日のこの会議が終わった後、部会が開催されますので、ご承知おきください。</p> <p>続きまして、報告事項の2です。保育園、学童保育所の待機児童数についてです。</p> <p>まず、保育園の待機児童の状況からお伝えします。4月1日時点の保育園の待機児童数は48名で、昨年に比べ、24名の増となりました。小規模保育施設として向原第二保育園が11名の定員増をしたのですが、全体では、保育士不足のため、定員数の減や定員まで受け入れられないというような状況があり、定員総数が減少したところに、2歳児のお申し込みが昨年より増えた結果、待機児童が増加したものと考えております。なお、4月1日時点の、定員総数は2,306名となっております。</p> <p>今、保育士不足ということをお伝えしましたが、チラシを机上配付させていただきました「保育園のおしごと相談会」を6月29日にBIGBOX東大和で開催することとしています。お知り合いの方などに宣伝していただけるとありがたいです。どうかよろしくお祈りします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>保育に関して補足説明しますと、器はできているけれども、そこで働く保育士の数が充足していないという深刻な問題があります。これは東大和だけではなく、東京全体、あるいは日本のかなりの部分、特に首都圏だけではなく大都市圏では大きく問題になっています。せっかく受け入れる体制はできているけれども、担当するだけの保育士がきちんとそろわないために、受け入れられないということがあります。市も、市内保育所の運営者側と協力して、「保育園のおしごと相談会」を去年度も2回開催していますし、今年も開催します。市と事業者側が協力してこういう形でできるということも、東大和市のすぐれたところであると思います。</p> <p>続いて、学童についてお願いします。</p>
事務局	<p>学童保育所の件ですが、国等への報告の基準日となります5月1日現在の数字でお話しさせていただきます。</p> <p>まず、入所児童数が731人、待機児童数が11人です。なお、今年度から学童保育所とランドセル来館事業のどちらか利用しやすいほうを保護者の方が選んで申請できるように事業を見直したこともあり、ランドセル来館事業の5月1日現在の登録児童数は312人となっております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上、2点についての報告事項でありましたが、この件に関して、何か皆さんからご質問・ご意見はありますか。</p>
事務局	<p>「保育園のおしごと相談会」の、前回、前々回の来場者や採用実績はどの程度でしょうか。来場者数は各回15名程度で、採用については2回合計で20名程度は採用に至っています。</p>
会長	<p>これは、それなりに効果を上げていると評価すべきと思っています。積み重ねていくことも大事かと思うので、ぜひ皆さん、PRしてください。よろしくお祈りします。</p> <p>ほかご質問等はないでしょうか。よろしいですか。</p>
会長	<p><b>(4) その他</b></p> <p>議事の4に移ります。委員の皆様から提案する議事とかございますか。よろしいですか。ないようですので、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>第3回の会議は、急遽ということで申し訳ございませんが、7月1日月曜日、午後2時から開催となります。場所は、前回、今回と変わりが、図書館の2階視聴覚室となっております。</p>

<p>会長 事務局</p>	<p>改めてご連絡はさせていただきますが、ご注意をいただければと存じます。</p> <p>また、当日は、本日同様、会議終了後に専門部会も同時に開催する予定となっております。お忙しい中、大変申しわけございませんが、ご予約の確保をお願いします。</p> <p>ありがとうございました。ほかにどうでしょうか。</p> <p>配付しました参考資料について説明です。内閣府の子供の貧困対策に関する有識者会議の抜粋を配付しております。</p> <p>この中に、例えば25ページに、東京都の調査ですけれども、金銭的理由で料金を支払えなかった場合の率やアンケートが入っており、当市のニーズ調査の90ページにも同様の設問がありますので、その比較等をして見ていただけると、当市の置かれている姿が見えるかとおもい、お配りしています。</p> <p>また、38ページのA3判資料は、都内26市の所得平均や、課税額の平均を記したものです。26市の平均や都内の平均より、当市は若干、所得、課税額が低くなっています。今後の計画策定の参考にしていただけると幸いです。</p> <p>それから、皆様方の任期についてです。皆様方の任期は7月末で満了となります。</p> <p>そこで、公募の委員の皆様につきましては、6月1日から市報とホームページで公募のお知らせを行います。</p> <p>なお、お申し込みの期間は、6月10日月曜日から6月14日金曜日までの5日間で、市役所1階で受付をします。お仕事で提出が難しいという場合には、ご連絡いただければ土曜日も窓口は開いていますので、対応したいと考えています。</p> <p>現在、公募委員で選出されている皆様方からのご応募もお待ちしています。</p>
<p>会長</p>	<p><b>4 閉会</b></p> <p>報告事項が全て終了しましたので、ほかになければ、以上をもちまして第2回の子ども・子育て支援会議を閉会させていただきます。先ほどからありますように、次回、第3回は7月1日に中央図書館の視聴覚室で開催となりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日はこれで閉会といたします。ありがとうございました。</p>